



からさわ
てるふみ

八丁味噌のふる里

岡崎八丁村屏風

同時開催

菅江真澄を追って旅絵日記（一九八七）

2024

9.14 (土)

2025

-1.13 (月)

休館日 | 木曜日・年末年始（12/25～1/2）
※11月は無休

開館時間 | 9:00～17:00 最終入館は16:30

観覧料 | 大人 300円 小人 100円
※足助屋敷への入館料です。本展示は入館料のみでご覧いただけます。

会場 | 三州足助屋敷館内 萬々館ばんばんかん

八丁味噌のふる里 岡崎八丁村屏風

日本のペン画家・からさわてるふみは1949年に愛知県宝飯郡で生まれました。岡崎市、足助町などで長年作品を生み出し続けています。本展示の屏風は八丁味噌発祥の地「八丁村」の様子を描いたものです。八丁味噌は愛知県岡崎市八丁町発祥の長期熟成させた豆味噌で八丁味噌の名は岡崎城から西へ八丁(約870メートル)の距離にある八丁(旧八丁村)に由来します。この地は矢作川の舟運(塩の道)と旧東海道が交わる水陸交通の要所でした。

菅江真澄を追って 旅絵日記1987

菅江真澄(すがえ ますみ)は江戸時代後期の国学者紀行家で日本民俗学の先駆者といわれています。1754年頃に三河で生まれ、和歌、漢学、本草学などを学び、1783年に旅に出て、信濃、越後、出羽、津軽、南部、仙台、蝦夷地と諸国巡歴の記録を残しました。

からさわてるふみは1987年、真澄の足跡を訪ねようと軽トラックの荷台にビニールの幌をかけ、炊事道具や衣類、身の回り一式や寝具を積み込み出発。160日目の10月24日、秋田県秋田市時内にある真澄の墓に野の花を手向け、旅を終えました。本展示はその旅の中で数多く描いてきた旅絵日記を紹介します。



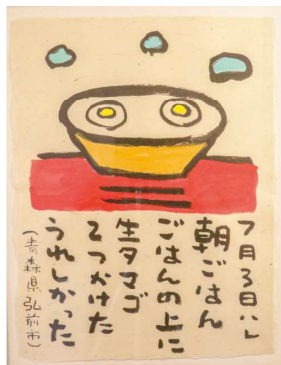
1



2



3



4



5

1 岡崎八丁村屏風 2~5 菅江真澄を追って 旅絵日記から

SANSHU ASUKEYASHIKI
三州足助屋敷

〒444-2424 愛知県豊田市足助町飯盛36
TEL 0565-62-1188 FAX 0565-62-1782
<http://asukeyashiki.jp/>



HP

交通案内

[交通機関で利用の場合]

名鉄東岡崎駅から 名鉄バス「足助」行き 約90分「香嵐溪」下車

名鉄浄水駅から 豊田おいでんバス「百年草」行き 約60分「香嵐溪」下車

[お車で利用の場合]

東海環状自動車道 松平ICより約20分

猿投グリーンロード 力石ICより約15分

